

卒業の認定について

○社会福祉学科

近年、我が国においては、急速な少子高齢化や福祉ニーズの多様化・高度化・複雑化などが進んでおり、子ども・高齢者・障害者など全ての人々が地域、暮らし、生きがいを共に創り、高め合うことができる「地域共生社会」の実現が目指されている。

本校の社会福祉学科社会福祉コースでは、福祉に関する相談に応じ、助言、指導、福祉サービスを提供する、あるいは医師その他の関係者との連絡及び調整その他の援助を行う社会福祉士を養成する。東京福祉大学通信教育部社会福祉学部社会福祉学科社会福祉専攻と併修する。心理学コースでは、近年需要が高まっている心理学を学び、認定心理士の資格を取得し、心理学の知識を活かして社会に貢献する人材を育成する。希望者は追加履修により社会福祉士や精神保健福祉士などの資格を目指すこともできる。東京福祉大学通信教育部心理学部心理学科と併修する。保育児童福祉コースでは、保育所の待機児童解消に向けて、保育の量の拡大を図る中、必要とされている保育士や幼稚園教諭を養成する。東京福祉大学通信教育部保育児童学部保育児童学科と併修する。

卒業は、各必修科目すべてにおいて、出席率を満たし、大学併修科目において提出課題をすべて提出したうえで、出席点・授業内評価・期末試験の総合評価で合格点を満たしているかどうかについて、卒業判定会議にて決定する。

○教育学科

近年、我が国では、いわゆる「知識基盤社会」の到来や、グローバル化、情報化、少子化、高齢化、社会全体の高学歴化等を背景に、社会構造の大きな変動期を迎えており、さらに教員不足の現状のなか、質の高い教員の育成が求められている。本校の教育学科教育学 ICT コースでは、ICT 教育の拡充のため文部科学省による「GIGA スクール構想」が推進されるなか、教育現場で求められている ICT を活用できる小学校教諭を養成する。教育学科教育学認定心理士コースでは、認定心理士を取得し、問題を抱えた児童生徒に心理的アプローチで解決を図ることができる小学校教諭を養成する。教育学科の両コースは東京福祉大学通信教育部教育学部教育学科学校教育専攻と併修する。

卒業は、各必修科目すべてにおいて、出席率を満たし、大学併修科目において提出課題をすべて提出したうえで、出席点・授業内評価・期末試験の総合評価で合格点を満たしているかどうかについて、卒業判定会議にて決定する。

○介護福祉学科

現在、介護の現場は人手不足が深刻であると言われている。団塊の世代が75歳以上となる2025年には、およそ38万人の介護職員が不足する見込みとなっている。しかし、人手さえあればよいという状況ではなく、2012年度からは喀痰吸引等のできる介護福祉士が求められるなど、現場はより質の高い介護者を求める状況ともなっている。本学科では高齢者や障害者の尊厳と自立を尊重した質の高い介護が提供できる介護福祉士を育成することを目的としている。その目的を達成するため定められた科目を全て修めた学生に対して卒業を認定している。

卒業には、各学年を通して出席すべき日数の5分の4を満たし、各科目に係る出席時間数が3分の2を満たしていることが必要である。当該学年の試験かつ介護実習にすべて合格し、卒業判定会議で総合的に判断し、決定する。

○日本語学科

当学科は、日本語教育機関として、語学において重要である四技能（読む・聞く・話す・書く）の養成から日常生活の支援まできめ細かいサポートを実施し、日本国内での進学を目指す留学生に対し、日本語教育を教授する学科となります。

日本国内の大学や専修学校に進学するために必要な日本語能力と学習習慣、実践的で確かなコミュニケーション能力を身に付けることを到達目標とし日本語教育を実践しております。

当学科の卒業については、卒業判定会議の議を経て校長が卒業を認定します。卒業の認定は、次の各基準を充足するものであることが条件となります。

- ・1年次からの出席率が時間数で85%以上の者（日数での判定は不可）
- ・1年次からの成績評価でF判定がない者
- ・学費を完納している者

成績評価について

○社会福祉学科、教育学科

各科目の素点100～80点を「A」、79点から70点を「B」、69点から60点を「C」評価とし、学期末の成績発表日に各学生に成績を通知している。また、各学年度末の総合成績における各科目の素点の合計を科目数で割った数を客観的指標として算出し、成績の分布状況を把握している。

○介護福祉学科

成績評価における客観的指標の算出方法として、各科目の素点 100～80 点を「A」、79～70 を「B」、69～60 を「C」評価とし、成績表を各学生に配付している。また、各学年度末の総合成績における各科目の評価を A を 3 点、B を 2 点、C を 1 点として GPA を算出し、成績の分布状況を把握している。

○日本語学科

成績評価は定期試験ごとに行い、定期試験の成績結果・授業態度・平常点・出席率から総合的に判断し、トータルで 100%（100 点満点）になるように基準を定めています。

平常点は課題等の提出物や授業内の小テスト、発表などについて参加度・出来具合を元に判定し、点数の内訳についてはシラバスに記載しております。

なお、定期試験の基準点は 60 点とし、基準点以下であった場合は、追・再試験の結果にて評価を行うこととしています。